

フェリペ3世のスペイン

La España de Felipe III

—その歴史的意義と評価を考える—

支倉使節団が訪れた当時のスペイン王フェリペ3世。

王国最大の版図を獲得した父フェリペ2世期と、「黄金世紀」の文化的隆盛が絶頂に達した息子フェリペ4世期に挟まれ、長らく注目を集めることのなかったこのフェリペ3世の時代については、近年、歴史学その他の分野で急速に見直しが進んでいる。その新動向をリードするスペイン近世史研究の泰斗マルティネス・ミジャン教授による講演に加え、歴史、文学、美術の各分野における報告および討論を通して、フェリペ3世時代の歴史的意義と評価を考える。

第1部：講演 13:10～15:10(逐次通訳込み)

「フェリペ3世統治期におけるスペイン王国の転換

—“普遍君主政”からカトリック王政へ—

“La evolución de la Monarquía hispana durante el reinado de Felipe III (1598-1621) :

De la *Monarchia Universalis* a la *Monarquía católica*”

ホセ・マルティネス・ミジャン(マドリード自治大学教授)

Dr. José Martínez Millán (Universidad Autónoma de Madrid)

第2部：パネル 15:25～18:00

15:25～15:50 「フェリペ3世期の歴史的見直し」

坂本 宏(中央大学准教授)

15:50～16:15 「フェリペ3世期のポルトガル—国家理性とキリスト教」

荻野 恵(上智大学講師)

16:15～16:40 「フェリペ3世期の文学と権カールイス・デ・ゴンゴラの場合」

吉田 彩子(清泉女子大学教授)

16:40～17:05 「フェリペ3世期の宮廷美術」

松原 典子(上智大学准教授)

17:15～18:00 討論および総括

モデレーター 関 哲行(流通経済大学教授)

日時：2014年5月10日(土) 13:00～18:00

会場：上智大学中央図書館 L-821

使用言語：日本語、イスパニア語(通訳付き)

入場無料 事前申し込み不要